

English follows Japanese

創世記 31章1-55節 恐れによる契約

今日の聖書箇所は創世記31章1-55節です。ヤコブが彼の叔父の元を去るところのかなり長い記述ですが、一つの完全な構成単位として取り上げる必要があると思います。何節かは飛ばしますが、全文をまだ読んでいच्छらなければ、今週ぜひ読んでください。まず祈り、今日の聖句に取り組みましょう。祈りましょう。

それでは、創世記31章を1節から読み始めましょう。

1.ところで、ヤコブはラバンの息子たちが、「ヤコブはわれわれの父の物をみな取った。父の物で、このすべての富をものにしたのだ」と言っているのを聞いた。2.ヤコブがラバンの態度を見ると、はたして、それは彼に対して以前のようにではなかった。3.主はヤコブに言われた。

「あなたが生まれた、あなたの父たちの国に帰りなさい。わたしは、あなたとともにいる。」聖句が進むと、ヤコブはこれら全てをラケルとレアに話します。彼女たちはこの状況は神がヤコブを祝福するためにこれら全てを指揮されたとはっきりと知りました。そして、彼女たちは夫に従って彼の生まれ故郷に帰る必要があることも認識しました。そして、17節から物語に戻ります。

17.そこでヤコブは立って、彼の子たち、妻たちをらくだに乗せ、18.また、すべての家畜と、彼が得たすべての財産、彼がパダン・アラムで自分のものとした家畜を連れて、カナンの地にいる父イサクのところへ向かった。19.そのとき、ラバンは自分の羊の毛を刈りに出ている。ラケルは、父が所有しているテラフィムを盗み出した。20.ヤコブはアラム人ラバンを欺いて、自分が逃げるのを彼に知られないようにした。21.彼は自分のものをすべて持って逃げた。彼は立ち去ってあの大河を渡り、ギルアデの山地の方へ向かった。22.三日目に、ヤコブが逃げたことがラバンに知らされた。23.ラバンは身内の者たちを率いて、七日の道のりを追って行き、ギルアデの山地でヤコブに追いついた。24.神は夜、夢でアラム人ラバンに現れて仰せられた。「あなたは気をつけて、ヤコブと事の善悪を論じないようにしなさい。」ラバンはヤコブに追いつきます。25-32節で彼は彼に娘たちや孫たちに別れの挨拶もさせずに去っていったヤコブに対する怒りを爆発させます。彼はまたヤコブがなぜ彼の家の神の偶像を持ち去ったのか問いました。勿論、ヤコブはこれに関しては何も知らずに、ラバンは自由にどこでも探せばよいと言い、盗んだ者は死に処せられると言いました。彼は明らかに彼の家族の中でそんなことをする者はいないと信じていました。33節で、ラバンの搜索を見ます。

33.そこで、ラバンはヤコブの天幕とレアの天幕、また二人の女奴隷の天幕に入って行っただが、見つからなかった。彼はレアの天幕を出て、ラケルの天幕に入った。34.ところが、ラケルはすでにテラフィムを取って、それらをらくだの鞍の中に入れ、その上に座っていたので、ラバンが天幕を隅々まで調べても見つからなかった。35.ラケルは父に言った。「父上、どうか怒らないでください。私はあなたの前で立ち上がることができません。女の常のことがあるからです。」彼は捜したが、テラフィムは見つからなかった。36.するとヤコブは怒って、ラバンをとがめた。ヤコブはラバンに向かって言った。「私にどんな背きがあり、どんな罪があるというのですか。私をここまで追いつめるとは。37.あなたは私の物を一つ残らず調べて、何か一つでも、あなたの家の物を見つけましたか。もしあったなら、それを私の一族と、あなたの一族の前に置いて、彼らに私たち二人の間をさばかせましょう。

ヤコブはこの頃には、すっかり憤ってしまい、ラバンの娘たちを娶るため、ラバンの群れを成長させ、ラバンがその経済的利益のために彼を利用したことと彼が果たしてきた苦勞の全てを吐露しました。そして、42節は続きます。

42.もし、私の父祖の神、アブラハムの神、イサクの恐れる方が私についておられなかったなら、あなたはきっと何も持たせずに私を去らせたことでしょう。神は私の苦しみとこの手の勞苦を顧みられ、昨夜さばきをなさったのです。

ここで一度止まり、この聖句の前半について話しましょう。ヤコブが彼の父の故郷に戻るという神の命令がこの聖句の鍵です。神はアブラハムやヤコブの父イサクとなさったようにいま彼に直

接話されていました。覚えていますか。神は以前ヤコブに夢でのみ、はしごを用いられ話されました。明らかにヤコブはかなり裕福になっていました。6年前、レアとラケル両者と結婚するための14年間の奉仕の後、彼は無一文でした。彼は結婚してたくさんの子供たちを儲けましたが、彼の結婚が報酬であり他には一切与えられませんでした。ラバンはその後もヤコブを騙して約束した報酬を支払わずにしようとしていましたが、先週見たように、6年めの終わりには神はヤコブに大いなる祝福を与えました。ここで、はっきりしているのは、ヤコブはこの祝福をもたらしたのは彼の努力ではなく神であったことを認識していることです。それが、ヤコブがラバンに伝えようとしていることです。神がラバンに抗してヤコブに代わって介入され、ヤコブはそれを認めているのです。詩篇107篇は神の民があらゆる点でヤコブのように応答すべきであることを語っています。

詩篇 107篇39~43節 39. 虐げとわざわいと悲しみにより彼らは減ってうなだれる。40. 主は君主たちを低くし道なき荒れ地をさまよわせる。41. しかし貧しい者を困窮から高く上げその一族を羊の群れのようにそこに置かれる。42. 直ぐな人はそれを見て喜び不正な者はみな口をつぐむ。43. 知恵のある者はだれか。これらのことに心を留めよ。主の数々の恵みを見極めよ。

神の民が他の人たちによって虐げられた時、神はちょうどヤコブのためになさったように彼らのために介入される。それは常に金銭的祝福であるわけではありません。しかし、42と43節を注目してください。直ぐな人はそれを見て、そして、**知恵のある者はだれか。これらのことに心を留めよ。** どうやら、私たちはこれらの祝福を見逃しており、神の御手の業に気づいていないようです。私たちは富を自分たちの努力の結果と思い込むか、あまりに困難な状況ばかりに気を取られて神を全く見ないかのどちらかです。金銭的であれ、その他の祝福であれ、神の御手の業を見る時、私たちは43節の結びのように着目すべきです。**主の数々の恵みを見極めよ。どんな富を持つとうと、**神からのどんな祝福を得ようとも、神を求めていれば全ての恵みは神を指し示します。ちょうど先週指摘したように、それらの金銭、物質、人間関係の祝福は神が私たちをどれほど愛し、愛しまれているかを示しています。それがなぜヤコブがこれほど経済的に成功している場所を神に従い進んで後にするかを説明します。ヤコブはやっと彼が得たすべては神のおかげであったと理解したのです。ですから、神が彼に全てを放棄するよう告げた時、彼は躊躇しなかったのです。

なぜ私たちは神への献金を恐れるのでしょうか。私たちは、聖書は私たちに献げることを命じていることを知っています。旧約聖書では十一献金、あなたの所得の10%、一割を基準としています。新約聖書は神の御業をサポートするためのそれ以上の神の恵みに基づく惜しみない献金を示しています。それにもかかわらず、私たちはそれに沿って献金できていません。多くの場合、私たちは私たちの持つもの全ては神のものであることを実のところ信じていないからです。所有者である神に権利があります。神が与えよと命じる時、従順に喜んで与える代わりに、渋々差し出すか全く出さないのは、それは私たちが稼いだものであり、ないと生活できなく、私たちのものだからです。それは、実際この物語の不信心な男ラバンの姿勢です。この聖句を進んでいく時、ヤコブがどのようにこの富、この祝福を見ているかとラバンがどのようにヤコブの所有する富を見ているかの対比を見ます。43節は語ります。43. ラバンはヤコブに答えた。「娘たちは私の娘、子どもたちは私の子ども、群れは私の群れ、すべてあなたが見るものは私のもの。この私の娘たちに対して、または、娘たちが産んだ子どもたちに対して、今日、私が何をしようのか。ラバンは神について話しました。神は明らかに夢で彼の前に来られヤコブを傷つけてはならないと告げられました。しかし、ラバンは彼が自分のものだと信じている富が現す栄光と功績を神に帰すことはしませんでした。ラバンは彼が大切にしている家の神の偶像を捜している様から見ても神を真に崇めていませんでした。彼は自分こそがヤコブの持ち物すべての正当な所有者であると信じていました。神が夢で介入されていなければ、全てがヤコブに属するという明白な証拠にも関わらずラバンはヤコブに危害を加えて全てを奪い取っていたでしょう。実際ラバンは恐れを持った人でした。ヤコブは彼を世の基準からすると裕福にした場所を進んで後にしまし

た。なぜならば、彼は人よりも神を恐れ、最終的に欺きによって出来事を操る自分の能力より神を信頼したのです。信仰を持つ人と恐れを持った人の対比は次に起こること以上に明確にはなり得ません。44-55節を読みましょう。

44. さあ今、私とあなたは契約を結び、それを私とあなたとの間の証拠としよう。45. そこで、ヤコブは石を取り、それを立てて石の柱とした。46. ヤコブは自分の一族に言った。「石を集めなさい。」そこで彼らは石を取り、石塚を作った。彼らは石塚のそばで食事をした。47. ラバンはそれをエガル・サハドタと名づけたが、ヤコブはこれをガルエデと名づけた。48. そしてラバンは言った。「この石塚は、今日、私とあなたとの間の証拠である。」それゆえ、その名はガルエデと呼ばれた。49. また、それはミツパとも呼ばれた。彼がこう言ったからである。「われわれが互いに目の届かないところにいるとき、主が私とあなたの間の見張りをされるように。50. もし、あなたが私の娘たちをひどい目にあわせたり、娘たちのほかに妻をめとったりするなら、たとえ、だれもわれわれとともにいなくても、見よ、神が私とあなたとの証人である。」

51. また、ラバンはヤコブに言った。「見なさい、この石塚を。そして見なさい、あなたと私の間に私が立てた、この石の柱を。52. この石塚が証拠であり、この石の柱が証拠である。私は、この石塚を越えてあなたのところに行くことはない。あなたも、敵意をもって、この石塚やこの石の柱を越えて私のところに来てはならない。53. どうか、アブラハムの神、ナホルの神、彼らの父祖の神が、われわれの間をさばかれるように。」ヤコブも、父イサクの恐れる方にかけて誓った。54. ヤコブは山でいけにえを献げ、一族を食事に招いた。彼らは食事をして、山で一夜を明かした。55. 翌朝早く、ラバンは孫と娘たちに口づけして、彼らを祝福した。それからラバンは去って、自分の所へ帰った。

これは多くの人たちがそう理解しようとしているようなステキな壊れた関係の修復の物語ではありません。これはヤコブをあまりにも多くの点で不当に扱ってきた人に対する彼の憎しみと憤りに満ちた反応から自分を守ろうとしたある恐れと不安でいっぱいの人々の物語です。ここでなにが起こっているのかを考えてみてください。神はラバンに彼はヤコブを手にかけてはならないと告げました。そして、ヤコブは彼を虐待して来たこの人に危害を加えるのではなく、代わりにただ立ち去りました。

ラケルが彼女の父親から偽りの神の像を盗んだのは真実ですが、ヤコブ自身は彼の所有物以外は何も取らず、他の者たちが盗んだことなど一切知りませんでした。ラバンはヤコブも彼と同じように考え、同じように他の人を利用して、他の人を信頼せずに生きてると信じていました。勿論、過去にはヤコブは全くそのように生きていた時期もありました。しかし、ヤコブは神が彼に彼自身の罪を突きつけられ、彼を変えられた時間によって変わりました。この後、創世記の出来事が展開していくとより明確になっていきます。ラバンが彼に対して復讐すると信じていたヤコブからの彼自身を守る唯一の希望は彼に対して危害を加えないという契約を契ることです。ヤコブがラバンの互いに対する不可侵条約の合意の提案にどう答えるか注目してください。ヤコブはこれを以前彼の神のはしごの夢を見た後に行っています。彼は石をその契約の場所の印としました。今回、彼は彼の家族一人一人に石を取るよう言いました。ラバンとのこの契約、この約束に彼だけではなく、家族全員が合意するのです。ラバンが自分のものと思っていた人々は、娘たちは夫の、孫らは父親の、僕たちでさえ主人のヤコブの側についていました。彼ら全員が石を取りヤコブへの忠誠を示しました。ラバンにとりどれほど自尊心を傷つけられたことでしょうか。ラバンはこの場所をエガル・サハドタと名付け、一方ヤコブは後にその場所の名称となるヘブライ語で同意義のガルエドと名付けました。両方とも意味は証人の塚です。積み上げられた石は彼らの条約を思い出させる証拠になります。ラバンはミツパとも名付けました。これは見張りをする物見やぐらという意味です。これがラバンのヤコブの彼に対する報復の恐れに基づいていることを忘れないでください。そしてこの契約は真の神または偽りの神の名において誓い結ばれます。これは、ラバンが私たちはあなたを見張っていることが出来なくとも、神又は神々はあなたが約束を守るよう確かめると言っているのです。それはまたいずれアラム人とヘブル人となる彼

らの家族の将来の世代のための境界マーカーとしての役割を果たします。それはアブラハムの元々の家族と神が御業によってアブラハムの血筋から創造された新しい民と国家との決別です。この石の柱は契約を象徴するだけではなく、この線を超えて相手側に行かないという約束でもありました。彼らは彼らの神に宣誓してこの契約を締結しました。これはラバンが真の神を知っているながら、神を拒絶したもう一つの明確な印です。ラバンはヤコブが神の信者と知っていたので、単に神の名を彼の目的のために利用したのです。彼は神の名を引き合いに出して彼がヤコブに彼の娘達に誠実であり、彼女達を虐待しないよう期待しているのです。しかし、この条約を守るために実際に宣誓する時、ラバンは53節で、**アブラハムの神、ナホルの神、彼らの父祖の神が、われわれの間をさばかれるようにとこれらの神々を呼び求めています。**彼は真の神を完全には受け入れていませんでした。他の聖書訳ではより正確に、この**ナホルの神**は神々と訳されて偽りの神々であることを示しています。**彼らの父祖の神**の表現も可能性として偽りの神々を指しており、ある意味、日本の神道で人が死ぬと神となる、先祖の神のような祖先崇拜のようです。まず、ヤコブはこの時点で神に完全に従っており、はっきりと真の神に誓っていたのでこの恐れを基にした契約を彼は必要としていませんでした。53節はこう言って終わります。**ヤコブも、父イサクの恐れる方にかけて誓った。**もし同じ31章の42節に一瞬振り返って見ていただければ、そこでもヤコブは聖書の神をそのように言及しています。私はこの誓いで終わりたいと思います。ご覧の通り、ここにヤコブに対して犯した罪のために恐れを抱いて生きていたラバンと言う人がいます。そして、もう一人ヤコブと言う、やっとな神への信仰によって生きることを学び、ラバンから彼を守り、ラバンが彼に対しての悪事を働く中でさえ彼を祝福し繁栄させる神を完全に信頼する人がいます。今日、私たちは私たちの人生にも、私たちの家計、家族、私たちの将来に関してもその同じ信頼と希望を神にあって持つことが出来ます。なぜならば、神は契約を結ばれたからです。恐れに基づかず、愛に基づいた、神の独り子イエス・キリストによる救いのための契約です。そして、裏切ったり、騙したりする人による契約と違い、神は契約を完全に守られます。ヘブル人への手紙6章13節は神のアブラハムとの最初の契約に関してこう言っています。**ヘブル人への手紙 6章13節 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、**そして16-20節はこう指摘しています。**16. 確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。17. そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。18. それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。19. 私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。20. イエスは、私たちのために先駆けとしてそこに入り、メルキゼデクの例に倣って、とこしえに大祭司となられたのです。この聖句は私たちの希望、人生の嵐の時、私たちを安全に守る私たちの錨は私たちのために契約を結んでくださったお方が神御自身であるという事実にあります。それは愛の契約、イエス・キリスト御自身の死によって誓われています。何人も彼の元に来る者は決して拒まれることはありません。イエス・キリストにあって、主は決して私たちを見捨てられることも置き去りにされることもないという希望があります。神以上の偉大なお方は存在せず、あなたと私は神の私たちの救いと祝福のための目的は決して変わらないことを知る事ができるために主は御自身によって誓いを立てられたのです。祈りましょう。**

Genesis 31:1-55 A Covenant of Fear

Our passage for today is Genesis 31:1-55. It is one long account of Jacob leaving his Uncle Laban, but I think it is necessary to deal with as one complete unit. We will be skipping several sections of verses, but I hope that if you have not already that you will read it in full sometime this week. Let's pray and then get into this text for today.

Let's read Genesis 31, starting at verse 1. **1 Now Jacob heard that the sons of Laban were saying, "Jacob has taken all that was our father's, and from what was our father's he has gained all this wealth."** **2 And Jacob saw that Laban did not regard him with favor as before.** **3 Then the Lord said to Jacob, "Return to the land of your fathers and to your kindred, and I will be with you."** As the passage continues, in verses 4-16, Jacob explains all this to Rachel and Leah who see the situation clearly that God has orchestrated all of this to bless Jacob, and that they need to follow their husband back to his original home. Then in verse 17, we pick back up the story. **17 So Jacob arose and set his sons and his wives on camels.** **18 He drove away all his livestock, all his property that he had gained, the livestock in his possession that he had acquired in Paddan-aram, to go to the land of Canaan to his father Isaac.** **19 Laban had gone to shear his sheep, and Rachel stole her father's household gods.** **20 And Jacob tricked Laban the Aramean, by not telling him that he intended to flee.** **21 He fled with all that he had and arose and crossed the Euphrates, and set his face toward the hill country of Gilead.** **22 When it was told Laban on the third day that Jacob had fled,** **23 he took his kinsmen with him and pursued him for seven days and followed close after him into the hill country of Gilead.** **24 But God came to Laban the Aramean in a dream by night and said to him, "Be careful not to say anything to Jacob, either good or bad."**

So, Laban catches up with Jacob, and between verses 25-32 expresses his anger at Jacob for leaving without letting him say goodbye to his children and grandchildren. He also questioned why Jacob took his idols, his "gods" as he calls them. Of course, Jacob knows nothing about that and says that Laban can search anywhere for them and the one who took them would be put to death. He obviously did not believe any of his family would do that. We pick back up at Laban's search in verse 33. **33 So Laban went into Jacob's tent and into Leah's tent and into the tent of the two female servants, but he did not find them. And he went out of Leah's tent and entered Rachel's.** **34 Now Rachel had taken the household gods and put them in the camel's saddle and sat on them. Laban felt all about the tent, but did not find them.** **35 And she said to her father, "Let not my lord be angry that I cannot arise before you, for the way of women is upon me."** So he searched but did not find the household gods. **36 Then Jacob became angry and berated Laban. Jacob said to Laban, "What is my offense? What is my sin, that you have hotly pursued me? 37 For you have felt through all my goods; what have you found of all your household goods? Set it here before my kinsmen and your kinsmen, that they may decide between us two.** Jacob is upset by now, and he goes on to describe all that he has gone through to work for his daughters and grow Laban's flocks while Laban took advantage of him financially. Then in verse 42 we read... **42 If the God of my father, the God of Abraham and the Fear of Isaac, had not been on my side, surely now you would have sent me away empty-handed. God saw my affliction and the labor of my hands and rebuked you last night."**

I want to stop here and discuss this first part of the text. The command from God that Jacob return to his father's homeland is a key to this passage. God is now speaking directly to Jacob as he had to Abraham and to his father, Isaac. Remember previously, he had only spoken to Jacob in a dream with a ladder. It is obvious that Jacob has become very wealthy. 6 years before this when he was finishing up his 14 years of service in order to marry both Leah and Rachel, he basically had nothing. He was married with many children, but his

wages had been his marriages, nothing else. Now at the end of 6 years, during which Laban had tried many times to cheat him out of agreed upon wages, God had greatly blessed him, as we saw last week. What is clear at this point is that Jacob recognizes that it was not his efforts that had produced this blessing, it was God's. That is the point he is making to Laban, that God had intervened against Laban and on Jacob's behalf, and Jacob recognized that. Psalm 107 talks about how God's people should respond in exactly the way that Jacob did. [Psalm 107:39-43 says, 39 When they are diminished and brought low through oppression, evil, and sorrow, 40 he pours contempt on princes and makes them wander in trackless wastes; 41 but he raises up the needy out of affliction and makes their families like flocks. 42 The upright see it and are glad, and all wickedness shuts its mouth. 43 Whoever is wise, let him attend to these things; let them consider the steadfast love of the Lord.](#)

When God's people are oppressed by others, God will intervene on their behalf just as he did for Jacob, although it will not always look like financial blessing. But notice verses 42 and 43. The "[upright see it](#)" and "[whoever is wise, let him attend to these things](#)..." Apparently, we can miss these blessings, and fail to see God's hand at work. We can take blessings such as wealth as our own effort or simply miss seeing God altogether because our circumstances seem so difficult. When we see God at work, whether it is financial or any other type of blessing, it should direct our focus to how [verse 43 ends. "...let them consider the steadfast love of the Lord.](#)" Whatever wealth we have, whatever blessing we have from God points us back to God if we are looking for him. Those blessings financial or physical or relational show us how much God loves and cares for us, just as we pointed out last week. It also explains why Jacob was willing to follow God and basically leave the place where it seemed he was so successful financially. Jacob finally understood that anything he had was due to God, so when God told him to give it up, he did not hesitate.

Why is it that we are fearful when it comes to giving? We know that the Bible commands us to give. The Old Testament holds a standard of tithing 10% of your income, and the New Testament holds a higher standard of generous, grace based giving in order to support God's work. Yet, many times we fail to give. Many times it is because we really don't believe that everything we have belongs to God, and he has the right to it. So, when he tells us to give, instead of obeying, we give grudgingly or not at all, because we think we can't live without it and we earned it and it is ours. This is actually the attitude of the ungodly man in this story, Laban. As we continue through this passage, look at the contrast between how Jacob sees this wealth, this blessing, and how Laban sees this wealth that Jacob has. [Verse 43 says, Then Laban answered and said to Jacob, "The daughters are my daughters, the children are my children, the flocks are my flocks, and all that you see is mine. But what can I do this day for these my daughters or for their children whom they have borne?](#) Laban talked about God, and God had clearly come to him in a dream to tell him not to harm Jacob, but Laban did not give God credit or glory for the wealth he believed was his. He obviously did not truly worship him as demonstrated by his search for the household idols that he held dear. He believed that he was the rightful owner of everything that Jacob had, and in spite of clear evidence of it now belonging to him would have likely harmed Jacob to get it all back had God not intervened.

Really, Laban was a man of fear. Jacob willingly left a place that by earthly standards was making him wealthy because he feared God more than man and finally trusted God more than his own ability to manipulate events by deceit. This contrast between a man of faith and a man of fear could not be clearer in what happens next. Let's read verses 44-55. [44 Come now, let us make a covenant, you and I. And let it be a witness between you and me." 45 So Jacob took a stone and set it up as a pillar. 46 And Jacob said to his kinsmen, "Gather stones." And they took stones and made a heap, and they ate there by the heap. 47](#)

Laban called it Jegar-sahadutha, but Jacob called it Galeed. 48 Laban said, “This heap is a witness between you and me today.” Therefore he named it Galeed, 49 and Mizpah, for he said, “The Lord watch between you and me, when we are out of one another’s sight. 50 If you oppress my daughters, or if you take wives besides my daughters, although no one is with us, see, God is witness between you and me.” // 51 Then Laban said to Jacob, “See this heap and the pillar, which I have set between you and me. 52 This heap is a witness, and the pillar is a witness, that I will not pass over this heap to you, and you will not pass over this heap and this pillar to me, to do harm. 53 The God of Abraham and the God of Nahor, the God of their father, judge between us.” So Jacob swore by the Fear of his father Isaac, 54 and Jacob offered a sacrifice in the hill country and called his kinsmen to eat bread. They ate bread and spent the night in the hill country. 55 Early in the morning Laban arose and kissed his grandchildren and his daughters and blessed them. Then Laban departed and returned home.

This is not the nice story of healing broken relationship that many people have tried to make it out to be. It is a story of a man full of fear who tried to protect himself from what he thought would be the hate and anger filled response of Jacob towards a man who has wronged him in so many ways. Think about what is happening here. God has told Laban he cannot touch Jacob or do him any harm, and Jacob instead of trying to harm this man who has mistreated him, instead just leaves. While it is true that Rachel did steal the idols from her father, Jacob himself took nothing that did not belong to him, and had no knowledge that anyone else had. Laban believed that Jacob thought the same and lived the same way he did, taking advantage of other people and not trusting other people. And of course, in the past, that was exactly how Jacob had lived. But Jacob was changed by his time of God confronting his sin and changing him. That will become even clearer as we continue to see the events unfold in Genesis.

Laban’s only hope for protecting himself against Jacob who he believed would take revenge against him, was getting him to make a covenant to do no harm against him. Notice how Jacob responds to his suggestion of a covenant that would signify this “non-aggression treaty” against each other if you will. Jacob has done this before after having his dream of God’s ladder—he takes a stone to mark the place of the covenant. This time he tells each member of his family to also take a stone. It would not just be him agreeing to this covenant, this promise, to Laban; it would be the entire family. All these people that Laban felt belonged to him were siding with their husband, father and even master, in the case of the servants, Jacob. They all placed a stone showing their commitment to Jacob, which had to be a blow to the ego of Laban. Laban calls the place Jegar Sahadutha in Aramaic, while Jacob calls it the equivalent name in Hebrew Galeed, which become the place name, Gilead. The meaning of both of these is “witness heap.” This pile of stones would be a reminder or witness of their treaty. Then Laban also calls it “Mizpah.” This means watchtower or to keep watch. Remember this is based on his fear of Jacob retaliating against him, and the covenant will be sealed by swearing to it in the name of a deity, whether the true God or false gods. This is Laban saying even though I can’t watch you, God or the gods will be making sure you keep your promise. It would also serve as the boundary marker for future generations between these families who will become the Aramean people and the Hebrew people. It is a clear break between the family that Abraham came from and the work that God is doing to create a new people and nation from Abraham’s line.

So, this pillar represented not just a covenant, but a promise not to cross the line to the other side. They sealed this covenant promise by taking an oath in the name of their gods. This is another clear sign that although Laban is aware of the true God, he rejects him. He simply uses God’s name for his purposes, because he knows that Jacob is a follower of God.

He invokes God's name to say that he expects Jacob to be faithful to his daughters and not mistreat them. But when it came to actually swearing to abide by this treaty in verse 53, he called on "The God of Abraham and the God of Nahor, the God of their father." He didn't fully accept the true God. There are several other English translations that accurately show that these are false gods by translating it gods of Nahor. Even the term "God of their father," is likely referring to false gods in some way like ancestral deities in much the same way as the Shinto view of becoming kami upon death and having ancestral kami.

Jacob who doesn't need this covenant, based on fear, in the first place since he is completely following God at this point, swears clearly by the true God. Verse 53 ends by saying that "Jacob swore by the Fear of his father Isaac." If you glance back in this same chapter to 31:42, this is how Jacob referred to the God of the Bible there as well. It is this oath that I want to end on. You see, we have a man Laban who lived in fear because of his sin he committed against Jacob. In Jacob, we have a man who had finally learned to live by faith in God and had complete trust in God to protect him from Laban and even bless and prosper him in the face of the evil done to him. Today, we can still have the same trust and hope in God for our lives, our finances, our families and our future because God made a covenant, based not on fear but on love, for our salvation with his own son, Jesus Christ. And unlike a covenant made by humans who fail far too often, he upholds that covenant perfectly. [Hebrews 6:13](#) referring to God's original covenant with Abraham says, [13 For when God made a promise to Abraham, since he had no one greater by whom to swear, he swore by himself](#), then verse 16-20 points out ["For people swear by something greater than themselves, and in all their disputes an oath is final for confirmation. 17 So when God desired to show more convincingly to the heirs of the promise the unchangeable character of his purpose, he guaranteed it with an oath, 18 so that by two unchangeable things, in which it is impossible for God to lie, we who have fled for refuge might have strong encouragement to hold fast to the hope set before us. 19 We have this as a sure and steadfast anchor of the soul, a hope that enters into the inner place behind the curtain, 20 where Jesus has gone as a forerunner on our behalf"](#) This passage is saying that our hope, our anchor that secures us safely in the storms of life, lies in the fact that God is the one who has made a covenant with us. It is a Covenant of Love, sworn to by the death of Jesus Christ himself, that anyone who comes to him will never be cast out. That in Jesus Christ, there is hope that he will never leave us or forsake us. He swore an oath by himself, because there is no one greater so that you and I could know that he is absolutely unchanging in his purpose for our salvation and for our blessing. Let's pray.